

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

ウィチョール族民芸品販売の現状と問題

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): ウィチョール族, メキシコ先住民, 民芸品, 生業, 近代化 キーワード (En): 作成者: 山森, 靖人 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学短期大学部
URL	https://doi.org/10.18956/00006032

ウィチョール族民芸品販売の現状と問題*

山 森 靖 人

要 旨

1960年代、ウィチョール族 (huichol) のシャーマンが描くサイケデリックな「抽象画」の芸術性が認知され、それと同調し、ウィチョール族民芸品の製作販売が始まる。現在、民芸品の製作販売は、彼らの重要な現金収入源となった印象を受ける。

しかし、Torres Contreras は、ウィチョール族の生産活動についての研究は少ないと指摘する (33)。彼らの民芸品についても、その概説やそこに表出された彼らの世界観を紹介・解説する著作は散見されるが、製作販売の現状に関する調査研究はほとんど行われていない。Nahmad Sittón による1970年代の状況に関する論考が見られるだけである (150-157)。

本稿では、現地調査により収集した情報に基づき、ウィチョール族の民芸品販売の現状を報告する。さらに、ウィチョール族にとって、現在の民芸品販売の「流行」がどのような意味をもつものであるのかを考察する。

キーワード：ウィチョール族、メキシコ先住民、民芸品、生業、近代化

1. ウィチョール族概説

メキシコの先住民ウィチョール族の居住地は、西シエラ・マドレ山脈のナヤリ山内にある。同山地は、Nayarit 州と Jalisco 州、Durango 州、Zacatecas 州の州境が交錯する地域に広がっており、彼らはその州境地帯で San Andrés (Cohamiata)、Santa Catarina (Cuexcomatitlán)、San Sebastián (Teponahuastlán)、Tuxpan de Bolaños、Guadalupe Ocotán の5つの先住民共同体を構成して居住する¹⁾。CDI (Comisión Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas: 国立先住民開発委員会) がまとめた2005年の統計資料によると、ウィチョール族の人口は46,379人 (17)。その約55%にあたる25,636人がNayarit 州に、約35%の16,312人がJalisco 州内に居住しており、以下、Durango 州の2,326人、Zacatecas 州の765人と続く (89, 77)。先住民共同体ごとのウィチョール族人口は、1994～1996年の統計資料として、San Andrés が3,914人、Santa Catarina が2,685人、San Sebastián と Tuxpan de Bolaños が合わせて4,757人である (Barrera Rodríguez 220)。

ウィチョール族の生業は雨期 (4月頃～9月頃) に行う農業である。山の斜面に coamil と

呼ばれる焼畑を作り、種まき用の棒や鋤、家畜を用いる極めて伝統的な農法で、とうもろこしやフリホール豆、かぼちゃなどを耕作する。さらに、牛を中心とした牧畜も行われる。

農閑期にあたる乾期（10月頃～3月頃）には、太平洋岸のタバコ農園などへ出稼ぎに出るウィチョール族が多い。主な出稼ぎ先は、Nayarit 州や Jalisco 州、Zacatecas 州の農場で、およそ6割は太平洋岸へ出向く（Barrera Rodríguez 229）。1995～1996年の統計資料を情報源として、ウィチョール族の出稼ぎ者の総数が1,409人、その35.14%が San Andrés から、28.31%が Santa Catarina、22.71%が San Sebastián、13.84%が Tuxpan de Bolaños からの出稼ぎであることが報告されている（Barrera Rodríguez 228）。

現在においても、先住民共同体におけるとうもろこし栽培を主とした農業が、ウィチョール族にとって最も重要な生業である。しかし、出稼ぎや民芸品の製作販売など、収入源の多様化により、その重要度は徐々に低下している（Weigand 109）。

2. 毛糸絵とビーズ細工

現在、民芸品店などで販売されるウィチョール族民芸品は、毛糸絵とビーズ細工の2種類に大別することができる²⁾。ウィチョール族独特の織物で作った帯や肩掛け鞆、あるいは刺繍細工も見られるが、製作販売されている絶対数は少ない。ここではまず、彼らの民芸品として主に販売される毛糸絵とビーズ細工について概説しておきたい。

毛糸絵（写真1）

ウィチョール族の毛糸絵は、呪物 *nierika* の制作技法を援用して発明されたものとされており、毛糸絵自体のことを *nierika* と呼ぶこともある。

呪物としての *nierika* の形態や用途は非常に多様性に富む。Fresán Jiménez の分類によると、その形態は、葦をリング状に編んだもの、蜘蛛の巣のように糸を張りリングを形成したものの、竹ひごで編んだもの、石や木の板の表面に彫刻あるいは毛糸を貼りつけて鹿やとうもろこしなどを描いたもの、毛糸絵、または円形の鏡である（65-67）。小型の *nierika* は呪物として用いられる矢に取り付けられることが多く、大型のものは神殿の壁にはめ込む、あるいは屋根からぶら下げられる（Lumholtz and Cruz 62）。しかし、今日のウィチョール族が作る *nierika* は、そのほとんどが、真ん中にガラスや鏡をはめ込んだ円形の小さな板、あるいは真ん中に穴を穿つか太陽を描いた小さな円形の板となっている（Negrin 31）。

いずれの形状であれ、*nierika* はウィチョール族のシャーマンが世界を知るために用いる呪物であり、天の世界を見るための窓を象徴したものとされる。つまり、現世と別世界の通路や扉であり、両世界を隔てる柵を象徴する（Schultes y Hofmann 184）。

呪物としての *nierika* から商品としての毛糸絵への発展は、ウィチョール族自身からの自発的な動きではなく、外部社会からの働きかけで起こったものであり、その動きは米国の人類学者 Robert M. Zingg がウィチョール族の現地調査を実施した1934～1935年頃より見られた (Maclean 68)。その後、首都 Ciudad de México に Museo de Artes e Industrias Populares (ポピュラーアート・産業博物館) が設立された1953年頃より、ウィチョール族の毛糸絵製作が盛んになる。当初の毛糸絵は小型でシンプルなデザインであったが、やがて、Zapopan 大聖堂のフランシスコ会神父 Ernesto Loera Ochoa の助言を受けたウィチョール族のシャーマン Ramón Medina Silva の手によって、ウィチョール族の神話ストーリーを毛糸絵に表現することが始められる³⁾。それは同大聖堂のウィチョール族博物館で展示・販売することを目的とした毛糸絵制作であった (Kindl y Neurath 443)。

ウィチョール族の世界観を映し出す毛糸絵は、その独特かつ緻密な制作技法とサイケデリックなデザインが高く評価され、民芸品からアートへと昇華した。毛糸絵の隆盛により、ウィチョール族は、「伝統的な生活を保守する先住民」や「芸術家」として、メキシコ国内のみならず、海外においても知られることになった⁴⁾。

ビーズ細工 (写真 2)

現在、ウィチョール族民芸品の主流は毛糸絵からビーズ細工に移っている⁵⁾。その変化を象徴するかのようには、2010年、メキシコにおける芸術活動のシンボリックな存在として、巨大なビーズ細工 *El Vochol* が作られた (Sáizar 54)⁶⁾。これは Museo de Arte Popular (ポピュラーアート美術館) の先導の下、ビーズ細工を手掛ける多くのウィチョール族が協働し、実動するフォルクスワーゲン社製旧ビートルの車体全面や内装にビーズ細工を施した作品である。

一方、民芸品としてのビーズ細工については、毛糸絵や織物、刺繍細工と比較して、より小型で安価なもの、すなわち芸術性が低いものが多く出回っている。

ウィチョール族のビーズ細工は、大別して2種類に分けることができる。ひとつは、糸にビーズを通して作るイヤリング (ピアス) やネックレス、指輪、ブレスレット、ペンダントなどの装身具である。もうひとつは、四角い木の板やひょうたんの器、あるいは仮面や動物の像に蜜蝋を塗り、そこにビーズを貼りつけて絵や模様を描いたものである。

後者は、呪物 *nierika* から発展した毛糸絵を、さらに進化させたものだと考えられる。同様に、ひょうたんの器にビーズを貼りつけて絵や模様を描くビーズ細工は、ひょうたんや土で作った器状の呪物 *jicara* を、販売目的の民芸品としてより華美に装飾したものと考えられる⁷⁾。

呪物 *jicara* の利用は古い時代の資料にも散見され、1890年からメキシコの探検調査を実施した Carl Lumholtz は、彩色とビーズでの装飾が施された器が神々への捧げものとして用いられること、さらに、かつてはその装飾に、貝殻で作られたビーズやとうもろこしの粒、造花、綿

の粒、羽毛などが使われていたことを報告している (77)。ウィチョール族にとって、ビーズそのものが呪的なパワーを秘め、生命やとうもろこしの種、水の象徴とされている (Kindl 72)。

また、ビーズで作る装身具についても、1888年に Santa Catarina へ派遣された政府役人が、女性の装身具として、ビーズのイヤリングやブレスレット、足首の装身具が利用されていることを記録している (Castelló Yturbide y Mapelli Mozzi 54)。

一方、動物の像にビーズを貼りつけて模様や絵を描く手法は、ウィチョール族独自のものではない。ジャガーの頭をかたどった像に彩色や飾り付けする Guerrero 州の民芸品から影響を受けたものと考えられている (Barajas Zendejas 121; Rajsbaum Gorodezki 72)。

写真1) 毛糸絵⁸⁾



写真2) ビーズ細工⁹⁾

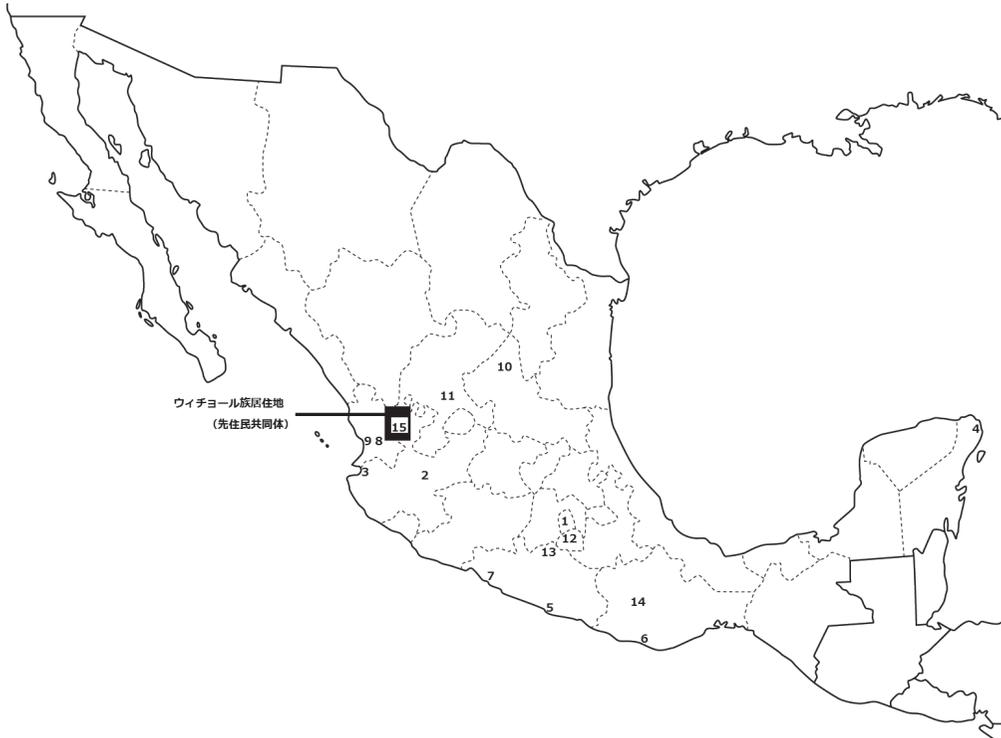


3. ウィチョール族民芸品の販売場所と販売形態

ウィチョール族民芸品販売の現状を知るため、その現場の観察、およびそれらに従事する人々へのインタビューを行った。調査地は地図1に1～15の番号で記した15ヵ所である¹⁰⁾。

各調査地におけるウィチョール族民芸品の販売形態を紹介し、彼らの民芸品販売がメキシコ各地に拡散している現状を確認したい。

地図1) ウィチョール族居住地と調査地(1~15)



調査地1) Ciudad de México¹¹⁾

2005年の統計によると、首都 Ciudad de México の総人口8,720,916人の約3.2%にあたる279,210人が先住民であり、そのうちウィチョール族の居住者数は56人である (PNUD 37; Alvarado Solís 71)。国内外から多くの観光客が集まる同市では、メキシコ各地の民芸品が販売されており、ウィチョール族の民芸品の販売は、博物館や美術館の売店、常設の民芸品市場、総合民芸品店、屋台などで確認できた。

Museo Nacional de Antropología (国立人類学博物館) と Museo de Arte Popular の売店では、仮面やひょうたんの器、動物の像、belén などのビーズ細工や毛糸絵といったウィチョール族民芸品が販売されている¹²⁾。これらの博物館は、比較的高度な民芸品製作技術を持つウィチョール族からビーズ細工や毛糸絵を買い上げ、それらに利益を上乗せして売店で販売している¹³⁾。しかし、博物館による民芸品の買い取りは恒常的なものではない。両博物館の売店では、2012年まではウィチョール族の民芸品が豊富に販売されていたが、年を追うごとにその販売量が減少し、2014年ではビーズ細工がわずかに販売されている状態となっていた。

これらの売店では、ウィチョール族の民族的なデザインを既製品化した商品、すなわち彼らの民芸品のデザインをプリントした絵葉書や葉、名刺入れやマッチ箱、ライター、マウスパッ

ドなどの日用雑貨、ルービックキューブなどの玩具、さらにはウィチョール族を紹介する書籍やDVDなども販売されているが、民芸品と同様にその販売量は減少しており、2014年には、紙製品（絵葉書や葉など）を除き、売れ残りのような状態で少数販売されているだけであった。

Museo Nacional de Antropología の売店では高級ブティック Pineda Covalin のウィチョール族民芸柄のネクタイやスカーフなども販売されている。同ブランドは、市内や空港の直営店、博物館などの売店で、ウィチョール族のみならず、メキシコ各地の民芸品や古代文明、さらに近年は世界各地の民族的なデザインをモチーフとした高級衣類や装身具を販売している¹⁴⁾。

常設の民芸品市場では、敷地内に多数の店舗ブースや屋台が作られ、メキシコ各地の民芸品が販売されている。そのような民芸品市場では、民族衣装を着たウィチョール族がビーズ細工を作りながら店番をし、ネックレスや指輪、イヤリング、ブレスレットなど、主に低価格なビーズ細工装身具を販売している¹⁵⁾。

Centro de Artesanías La Ciudadela（シウダデラ民芸品センター）には約350の民芸品店舗ブースが集結しており、ウィチョール族による民芸品販売は、店舗ブースが3店、市場通路での屋台が2店確認できた（2014年8月26日）。過去の出店状況は、2005年では店舗ブースが2店と通路の屋台が2店（同年9月12日）、2011年では店舗ブースが1店増加して3店になり（同年8月22日）、2014年では通路での屋台が1店減少している。同民芸品市場の職員によると、恒常的に新規出店の余地はない状態である¹⁶⁾。

Coyoacán 地区にある Bazar/Mercado Artesanal Mexicano（メキシコ民芸品市場）にも、ウィチョール族による民芸品店舗ブースが3店存在する（2013年2月27日）。同所におけるウィチョール族が民芸品を売る店舗数の変化は、2011年と比較すると1店増である。

同市には FONART（Fondo Nacional para el Fomento de las Artesanías：民芸品振興のための国立基金）や Artesanías Plaza San Juan（サン・フアン広場民芸品店）、Centro Artesanal（民芸品センター）のような、総合民芸品店も存在する。このような大型の民芸品店では、メキシコ各地のポピュラーな民芸品や大量生産された土産物が取り扱われているが、ビーズ細工や毛糸絵など、ウィチョール族の民芸品が販売されているケースは少ない。Artesanías Plaza San Juan でウィチョール族のビーズ細工や毛糸絵の販売が確認できたが、いずれも低品質なもので、販売員もウィチョール族やその民芸品に関する知識は持ち合わせていなかった。

ウィチョール族自身が営む民芸品の屋台については、Zócalo（中央広場）の大聖堂脇や Museo Nacional de Antropología の前、地下鉄 Balderas 駅周辺の歩道、Coyoacán 地区の Casa del Artesano（民芸品職人の家）の前などで確認できた。しかし、政府当局の公認・非公認に関わらず、屋台での商売は非常に不安定なものである。例えば、ウィチョール族男性が週末のみ Zócalo で出店していたビーズ細工の屋台（公認）は、出店許可が取り消された2012

年にその姿を消し、Balderas 駅周辺の歩道に並ぶ「屋台街（非公認）」からもウィチョール族民芸品の屋台は消えた。2014年8月の時点では、Museo Nacional de Antropología 前のビーズ細工の屋台（公認）だけが、以前と変わらずウィチョール族女性が店番をして営業を続けている¹⁷⁾。

調査地2) Guadalajara/Zapopan¹⁸⁾

Jalisco 州の州都 Guadalajara はメキシコ第二の都市であるが、近代的な趣は少なく、落ち着いた雰囲気をもつ。Zapopan は同市北側に隣接する衛星都市である。同市北部に位置するウィチョール族の居住域から比較的交通アクセスが良く、2005年の資料では、Guadalajara 在住のウィチョール族は173人、Zapopan は163人と報告されている（Alvarado Solís 74-75）。

Zapopan の大聖堂に併設されている Museo Etnográfico *Wixárika* (ウィシャリカ民族博物館) は、小さな博物館ではあるが、ウィチョール族の民芸品を語る上で非常に重要な施設である¹⁹⁾。ウィチョール族の毛糸絵が民芸品さらにはアートとして広く認知されるきっかけは、同大聖堂のフランシスコ会神父 Ernesto Loera Ochoa によるものであった。既出のように、1950年代、同神父の助言を受けたウィチョール族の毛糸絵製作者が、彼らの世界観を毛糸絵として描くことを始め、それまでのシンプルな毛糸絵を派手で人目をひく「芸術」へと昇華させた (Kindly Neurath 443)。1961年、カトリックの布教促進とウィチョール族民芸品の紹介・販売を目的として、同大聖堂脇に Exposición Huichola (ウィチョール族展示室) が設立され、さらに1998年には Museo Huichol *Wixarica* (ウィチョール=ウィシャリカ博物館) へと全面改装される (*Museo Etnográfico Wirrarika* 2)。現在、Museo Etnográfico *Wixárika* の看板を掲げる同博物館では、ウィチョール族の生活や宗教、世界観などの展示と共に、毛糸絵やビーズ細工、織物・刺繍細工のほか、他ではほとんど見られないウィチョール族の民族衣装一式などが販売されている²⁰⁾。併せて、ウィチョール族の毛糸絵をプリントしたTシャツや絵葉書など既製品化された商品も販売されている。同博物館売店の販売員は、「ウィチョール族の支援を目的としているため、ウィチョール族が持ち込んだ民芸品を販売して得られる利益は100%彼らの手に渡る」と説明する²¹⁾。

首都同様、Guadalajara にも広く民芸品全般の販売を行う総合民芸品店が存在する。例えば、Instituto de la Artesanía Jalisciense (ハリスコ民芸品協会) に隣接する La Casa de las Artesanías de Jalisco (ハリスコ民芸品の家) では、広い店舗内で Jalisco 州各地の民芸品が販売され、ウィチョール族の民芸品についても、毛糸絵やビーズ細工のほか、民族衣装、織物の鞆、さらにはそれらの写真を絵葉書に仕立てたものなど、多種多様な品ぞろえで展示即売されている。しかし、同店の販売員はウィチョール族についての知識はなく、「売上金は先住民に渡る」と説明するが、その具体的な頻度や割合については教えてもらえなかった²²⁾。

Guadalajara の Plaza Tapatía (タパティア広場) には、ウィチョール族が安価なビーズ細工を売る屋台が見られる。2013年2月の調査時、同広場にはメキシコ各地の民芸品を売る屋台(公認)が約30店あり、そのうち3店がウィチョール族によるビーズ細工の屋台であった(2013年2月17日)。さらに、Parque Agua Azul (アグア・アスール公園) や Nuestra Señora del Carmen 教会(カルメン聖母教会)の前、Zapopan 大聖堂の前でもウィチョール族が各1~2店の屋台(非公認)を出している(2013年2月17~19日、2014年8月24日)。また、2013年には16 de Septiembre (9月16日)大通りの歩道に、州政府公認の「屋台街」が存在し、ウィチョール族によるビーズ細工の屋台も3店存在したが、その「屋台街」は2014年8月には姿を消していた(2013年2月19日、2014年8月25日)。ウィチョール族同士の「場所争い」が激しく、Parque Agua Azul で週末に屋台(非公認)を出すウィチョール族男性は、「観光客が集まる Plaza Tapatía で新規に屋台を出すのは無理だ」と語る²³⁾。

調査地3) Puerto Vallarta²⁴⁾

Jalisco 州の太平洋岸に位置するビーチリゾートで、州都 Guadalajara からバスで4時間ほどの距離にある。国際的な知名度は Cancún や Acapulco ほど高くはないが、パカンスシーズン(1月頃~4月頃)には国内外、特に Guadalajara や米国から多くの観光客が訪問する。

ウィチョール族の居住地から最も近いリゾート観光地であるため、彼らの民芸品を扱う店が数多く存在し、それらは、高品質な毛糸絵やビーズ細工をアートとして展示販売するギャラリー風の民芸品店、地味な店構えではあるが高品質な毛糸絵を専門に販売する民芸品店、さらに、質の劣るやや低価格な毛糸絵やビーズ細工を様々な民芸品と併売する民芸品店に大別することができる。いずれもウィチョール族が直接販売に携わっているものではない。

例えば、ある毛糸絵専門店では29人のウィチョール族と契約して商品を仕入れ、店頭販売価格の30~35%を彼らに還元すると言う(写真1、注8参照)。また、同店の店主は、ギャラリー風の民芸品店について、「店頭で民族衣装を着てビーズ細工の製作実演をしているのは偽ウィチョール族だ」や「民芸品販売は単なる客引きで、ウィチョール族の解説チラシを渡しながら来店者の名前を聞き出して宿泊先をチェック。裕福な観光客だと判断すると、言葉巧みに食事やツアーなどを勧誘する」と、その商売のやり方を批判する²⁵⁾。

調査地4) Cancún²⁶⁾

ユカタン半島にあるメキシコ有数の高級リゾートで、カリブ海でのビーチパカンスやマヤ文明の遺跡を巡る拠点として人気が高い。

ウィチョール族の居住地から1,700km以上の直線距離があり、ウィチョール族との歴史的・文化的な繋がりはない。それにもかかわらず、高級ホテルが林立する地区にあるショッピング

センターPlaza Caracol（店舗約200店）内に2店、旧市街の民芸品市場 Mercado 28の前に1店、ウィチヨール族の民芸品を扱うギャラリー風の民芸品店が存在する。高級路線を志向するこれらの店では、契約するウィチヨール族の所まで商品（民芸品）を買い付けに行く²⁷⁾。

販売スタイルはPuerto Vallartaのギャラリー風の民芸品店と同様である。来店者に民芸品に表現されるデザインやシンボルを解説するチラシを手渡し、さらにウィチヨール族に関する書籍を用いて彼らの伝統や世界観を饒舌に解説して興味を引き、高価なビーズ細工や毛糸絵を販売する。例えば、首都の民芸品市場では200～300ペソのビーズ細工の動物像と同様のものが、Cancúnでは300～500ペソほど（2012年2月当時のレートで約1,200～1,800円）で販売される。Plaza Caracolの店に展示されていたジャガーの仮面のビーズ細工には、4,500ドル（2012年2月当時のレートで約370,000円）の値が付いていた（2012年2月15日）。

調査地5) Acapulco 調査地6) Puerto Escondido 調査地7) Ixtapa/Zihuatanejo²⁸⁾

これらの調査地は、多少その性格は異なるが、いずれもビーチリゾートである。ウィチヨール族との歴史的・地理的・文化的なつながりはなく、民芸品店は存在するが、ウィチヨール族民芸品の販売を確認することはできなかった。AcapulcoとPuerto Escondidoのサーフィン専門店でビーズ細工の絵柄をプリントしたサーフボードが展示されており、IxtapaのショッピングセンターPlaza Tularesにあるドラッグ・カルチャーの影響を受けた店舗で、毛糸絵の絵柄をプリントしたTシャツが販売されているのが確認できただけである。

調査地8) Tepic 調査地9) San Blas²⁹⁾

Nayarit州の州都Tepicはウィチヨール族の居住地であるナヤリ山地に近接する。ウィチヨール族の主な出稼ぎ先がNayarit州であり、2000年の統計資料によると、Tepicには3,564人のウィチヨール族が在住する（Alvarado Solis 72）。

ウィチヨール族が多く居住するが、観光都市としての性格が弱く、2005年の訪問時には民芸品の販売を確認することができなかった。同州内に住む先住民を紹介する博物館 Casa de los Cuatro Pueblos（四民族の家）においても、ウィチヨール族の毛糸絵やビーズ細工が展示されているのみで、その販売は行われていなかった。Museo Regional de Nayarit（ナヤリ地方博物館）でも毛糸絵が少し展示されているだけであった（2005年9月6日）。

San BlasはTepicからバスで2時間ほどかかる太平洋岸の小さな港町である。ビーチはあるがリゾート観光地として開発はされていない³⁰⁾。

同地はウィチヨール族にとって非常に重要な意味を持つ。ウィチヨール族はSan Blasの海岸を *Tatēi Haramara*（「母なる海」を意味する）と呼び、海から現れた神が、内陸地の聖地 *Wirikuta*（San Luis Potosí州 Real de Catorce 近郊）に向かうという内容の神話を伝承してい

る (*Lugares sagrados* 9)。

2000年の統計資料によると、San Blas 在住のウィチョール族は226人 (Alvarado Solís 72)。2014年8月の調査時、毛糸絵やビーズ細工を専門に販売する民芸品店が1軒存在し、町の中央広場ではナヤリ山地在住のウィチョール女性がビーズ細工を売る屋台を出していた。しかし、同町を訪問する観光客は少ない。その女性は「山でビーズ細工を作り、Tepic や San Blas で売っているが儲からない。むしろ町での買い物で出費が多い」と嘆く³¹⁾。

調査地10) Real de Catorce³²⁾

San Luis Potosí 州北部に位置する小さな村である。かつては銀鉱山として繁栄し、16,000人近くの住民を抱えたが、現在はおよそ1,850人の住民が暮らす寒村である (Gómez Romero 23)。しかし、映画のロケ地として利用され、また、ゴーストタウンのような寂れた雰囲気が人気となり、現在は観光地となっている。

同村の近郊にはウィチョール族が巡礼に訪れる聖地 *Wirikuta* が存在する³³⁾。そのため、村内には他の民芸品と併せてウィチョール族の毛糸絵やビーズ細工を売る民芸品店が2店あり (2013年2月26日)、村の通り沿いでビーズ細工の屋台を出すウィチョール族の姿も見られた (2007年3月26日)。Real de Catorce に関しては、ウィチョール族の民芸品と併せて、peyote (幻覚サボテン) 関連の土産物 (置物やキーホルダーなど) が充実している³⁴⁾。

調査地11) Zacatecas³⁵⁾

Zacatecas 州の州都で、かつて銀鉱山として栄え、そのコロニアルな街並みが「サカテカス歴史地区」としてユネスコ世界遺産登録されている。同州南西部に位置するウィチョール族居住地との往来が比較的容易で、2005年の統計資料によると、同州内のウィチョール族人口は765人 (CDI 145)。

市内にある Museo Zacatecano (サカテカス博物館) では、ウィチョール族の毛糸絵や刺繍の展示がされており、特に後者については、他の博物館では見られない充実ぶりを見せる。付属の売店ではビーズ細工を中心に、多種多様なウィチョール族民芸品が販売されていた (2006年9月11日、2013年2月24日)。

また、30ほどの店舗が集まった Mercado González Ortega (ゴンサレス・オルテガ市場) 内にて、ウィチョール族の毛糸絵やビーズ細工などを売る店舗を3店確認できた (2006年9月11日)。その中の1店に、ビーズに糸を通して房状にしたものを大量に在庫している店があり、店員 (ウィチョール族ではない) は「首都や Nayarit 州で一房単位や量り売りでビーズを調達する。チェコ製のビーズもある」と言う。そのビーズをウィチョール族に売り、彼らが仕上げたビーズ細工を買い取って店で販売している³⁶⁾。

ウィチョール族が出す民芸品の屋台も存在し、中心街の街路沿いや同市の東にそびえる Cerro de la Bufa (ブファの丘) へ至る道沿いで、民族衣装を着たウィチョール族がビーズ細工を売っている (2006年9月12日)。

調査地12) Cuernavaca 調査地13) Taxco 調査地14) Oaxaca³⁷⁾

いずれもウィチョール族とは所縁のない町である。

Cuernavaca の中央広場そばにある民芸品市場内の屋台ブース (ウィチョール族の屋台ではない) では、首都のウィチョール族屋台で売られていたものとまったく同じビーズ細工の天使が30ペソ (2012年8月当時のレートで約180円) で販売されていた。また、大聖堂のそばに、高級な雰囲気のある小さな民芸品店があり、belén やプレスレットなどのウィチョール族ビーズ細工が販売され、前者には2,500ペソ (2012年8月当時のレートで約15,000円) の高値が付けられていた (2012年8月30日)。

Taxco では Centro Cultural Taxco Casa Borda (ボルダ家・タスコ文化センター) の売店で、太陽と月をデザインした直径30cmほどのウィチョール族のビーズ細工が販売されており、別的高级路線の小さな民芸品店にて、ウィチョール族の毛糸絵のデザインをプリントしたキーホルダーや小銭入れが販売されていた。しかし、同店の店員は、それがウィチョール族に由来するデザインとは知らなかった (2012年9月1日)。

Oaxaca では、外国人旅行者向けの書店でウィチョール族の毛糸絵が販売されており、縦100cm横50cmほどの毛糸絵に5,000ペソ (2012年8月当時のレートで約30,000円) の値が付けられていた。店員は Nayarit 州に毛糸絵を仕入れに行くと言明した (2012年8月19日)。

調査地15) Tuxpan de Bolaños³⁸⁾

Jalisco 州北部に位置する Tuxpan de Bolaños は、同名の先住民共同体の首村であり、ウィチョール族居住地の中では最も「文明化」が進んだ村落のひとつである。

同州の州都 Guadalajara から地図上で100kmほどしか離れていない。しかし、Guadalajara を朝の6時半に出発し、途中の町でバスを乗り換えて砂利道で峠を越え、同村に到着するのは午後5時頃になる³⁹⁾。それでも、近年、道路環境の改善が進み、かつては全線砂利道であった峠越えの道も一部舗装化された。また、村内のインフラ整備も進められており、2009年頃から上水道設備の工事が行われ、2013年には電気設備が整い、各家庭での電化製品利用が浸透し始めていた。一部の家庭ではプロパンガスを利用し始めている (山森 70-71)。

現在、ウィチョール族村落と外部社会との交流が活発化し、村人の生活への貨幣経済の浸透は急速に進んでいる。筆者が初めて訪問した1994年には数軒の雑貨店しか存在しなかったが、近年は店舗を構えるウィチョール族が急増し、さらには、メスティソ商人たちが町から自家用

トラックで乗り付け、村の一角で tianguis（露天市場）を広げている（2013年2月22日）。

一方、同村内に宿泊施設はなく、観光地化は進んでいない。そのため、村内での民芸品販売はほとんど行われていない⁴⁰。2006年8月、Guadalajara から戻ってきたウィチョール族が毛糸絵やビーズ細工を製作販売する店を開業したが、2008年に再訪した際には既に閉店していた。2013年の調査時には、缶詰やカップラーメンを売る小さな雑貨店の片隅で、ビーズ細工の装身具がほんのわずかだけ販売されていた（2013年2月22日）。

4. まとめ

15カ所での現地調査により、ウィチョール族民芸品の販売が、大都市やメキシコ各地の観光地、とりわけリゾート地に拡散していることが確認できた。

メキシコを訪問する外国人観光客にとって、ビーズ細工や毛糸絵は、非常に魅力的な商品のようである。アートとして認知されている点、カラフルで斬新な色使い、先住民の世界観がストーリーと共にシンボリックに表現されている点、壊れ難く持ち運びが容易な点、ドラッグ・カルチャーとの結びつき、さらには、そのデザインが日用品や高級ブティックの商品にも取り入れられ既製品化されている点など、毛糸絵やビーズ細工が人気を得る要因は多い。

また、売り手にとっても、製作に手間暇がかかること、アートであること、「伝統的」かつ「先住民的」であることなどをアピールし、売価を高く設定できる都合のよい商品だと言える。

現金収入源を必要とするウィチョール族にとって、ビーズ細工や毛糸絵が広く認知され、その人気上昇するのは有難いことであろう。しかし現在、メキシコ各地の観光地に拡散しているのは、ウィチョール族から高品質な民芸品を買い取り、利益を上乘せして販売する民芸品店であり、そのような販売形態で現金収入を得ることができるウィチョール族は、高い技術や感性を持つごく一部の「アーティスト」だけである。ましてや、資金力も商売の知識も持たないウィチョール族自身が、観光地で民芸品店を構えることは極めて困難である。

ウィチョール族が直接携わる販売形態は、首都や Guadalajara などで見られる屋台（公認・非公認）や民芸品市場内の店舗ブースに限られており、それらは非常に不安定かつ新規参入が既に困難な状態である。現状に鑑みて、民芸品の販売は、ウィチョール族にとって安定的かつ発展的な現金収入源とは言い難い。

さらに、ウィチョール族民芸品の人気上昇は、商売敵の増加をもたらしているように思われる。ウィチョール族が屋台や民芸品市場で売る民芸品は、低価格なビーズ細工が主流を占めるが、製作が容易なそのような低価格商品は、ウィチョール族でなくても製作することができる。近年、ウィチョール族のビーズ細工を真似た商品を販売する屋台が増加傾向にある。その実態調査は今後の課題となるが、巧みに観光客を取り込む術を知る商売敵の増加が、屋台や民芸品

市場での細々としたウィチョール族の商売にダメージを与えることが懸念される。

※ 本研究は、JSPS 科研費23652197の助成を受けたものです。

注

- 1) San Andrés と Santa Catarina、San Sebastián は Jalisco 州 Mesquitic 郡に、Tuxpan de Bolaños は同州の Bolaños 郡、Guadalupe Ocotán は Nayarit 州の La Yesca 郡に属する (Télez Lozano 47)。これらの先住民共同体 (comunidad indígena) は郡 (municipio) の下位区分にあたり、統治面や宗教活動において、かなりの自治権を有している。各共同体には同名の首村が存在し、自治統治の中心地として機能する。San Andrés の首村がウィチョール族村落の中では最大規模を誇る。筆者が調査地とする Tuxpan de Bolaños の首村には、役場や警察組織などメキシコ政府の公的機関は存在しない。またメキシコの村落では非常に稀なことであるが、カトリックの教会も存在しない。
- 2) 毛糸絵はスペイン語で cuadro de estambre、英語では yarn painting と呼称される。
- 3) Ramón Medina Silva は米国の神話学者 Peter T. Furst と人類学者 Barbara G. Myerhoff の情報提供者として知られ、その人となりは、後者の著作 *Peyote Hunt* の第1章に詳しい。
- 4) 博物館などが出版する上質な装丁が施された図録などに、ウィチョール族がアーティストのような扱いで紹介されることがある。例えば、*Grandes maestros del arte popular mexicano* では、Nayarit 州に在住する刺繍細工を手掛けるウィチョール族や、Tuxpan de Bolaños で毛糸絵やビーズ細工を手掛けるウィチョール族が、本人とその作品の大きなカラー写真と共に紹介されている (Fernández de Calderón 458-461, 540-543)。
- 5) ウィチョール族が民芸品の製作に用いるビーズは、チェコ共和国やイタリア北部の Murano、アジア諸国で製造されたものである。良品質を求めるウィチョール族の民芸品製作者は、中華人民共和国や台湾で作られたプラスチック製のビーズを採用しないことが報告されている (Neurath 78, 417)。
- 6) *El Vochol* の名称は、かつてメキシコの国民車であった “Volkswagen (旧ビートル)” と “huichol” を合成したもの。
- 7) 1905～1907年にウィチョール族とコラ族 (cora) を調査した Konrad T. Preuss の業績をまとめた著書に、彼の調査当時の jícara がカラー写真で紹介されている (*Arte antiguo cora y huichol* 43-45)。また、Robert M. Zingg が1934年に Tuxpan de Bolaños でコレクションした jícara や *nierika* のカラー写真を多数紹介する書籍も出版されている (Grady 36-40; Maclean 66-70)。
- 8) 縦横約30cm。作者は San Andrés 在住のシャーマン José Carrillo Flores。2011年9月、Puerto Vallarta のウィチョール族毛糸絵専門店にて購入。購入価格1,000ペソ (2011年9月当時のレートで約6,000円)。木の板に蜜蝋で毛糸とビーズを貼りつけて作られている。神々への捧げものを入れた jícara が描かれている。購入店の店主 (ウィチョール族ではない) の解説によると、「鹿の角ととうもろこし、

peyote (幻覚サボテン) は、ウィチョール族の宗教観で同一視される。器には丸い鏡の *nierika* とろうそくも入れられている。jicara に描かれた2匹のサソリは人々の守護者。その間のコインは豊穡の象徴。空のヘビは水、ビーズで描かれた蝶は死の象徴。同じくビーズで描かれた真ん中の呪物 ojo de dios (神の目) は救済の象徴。波線は精霊、丸い小さな点はとうもろこしの種」。

- 9) 高さ約10cm。作者不明。2011年9月、Ciudad de México の Centro de Artesanías La Ciudadela (シウダデラ民芸品センター) にて購入。購入価格300ペソ (2011年9月当時のレートで約1,800円)。木彫りの鹿の像に蜜蝋でビーズを貼りつけている。
- 10) 本稿執筆にて活用した現地調査資料・情報は、2005年から2014年8月までに10回実施した現地調査によって収集した。なお、2011年以降の民芸品に重点を置いた5回の現地調査は、科研費挑戦的萌芽研究「ウィチョール族文化の既製品化と先住民社会への利益還元に関する文化人類学的研究 (平成23~26年・課題番号23652197)」を受けて実施した。
- 11) ウィチョール族の民芸品販売に重点を置いた調査は以下の年月日に実施した。2011年8月20~22日、同年9月2~4日、2012年2月18~20日、8月29・31日、同年9月2日、2013年2月27~28日、同年3月1~2日、2014年8月26~28日。
- 12) belén はイエス誕生の情景を再現したクリスマスの飾りのこと。nacimiento と呼ばれる。
- 13) Centro de Artesanías La Ciudadela で民芸品を製作販売するウィチョール族男性とのインタビューによる情報 (2011年9月4日)。
- 14) 例えば、ウィチョール族の民族的なデザインを刺繍したネクタイの販売価格は約900ペソ (2011年8月当時のレートで約5,400円) であった。
- 15) 例えば、Centro de Artesanías La Ciudadela 内の屋台でのビーズ細工 (プレスレットやネックレス) の販売価格は18~25ペソ (2013年2月当時のレートで約131~183円) であった。
- 16) 2012年2月20日にインタビュー実施。
- 17) 店番の女性によると、売れ筋は1個25ペソ (2014年8月当時のレートで約195円) のビーズ細工の指輪で、1日に5~6個売れる。指輪だけで1日におよそ125~150ペソ (2014年8月のレートで約975~1,170円) の売り上げとなる (2014年8月27日)。なお、ネット上のデータによると、メキシコの平均年収 (9,089ドル) からの単純計算で同国の1日あたりの平均収入は約25ドル (2014年12月のレートで約2,900円) である (「世界の平均年収」)。
- 18) ウィチョール族の民芸品販売に重点を置いた調査は以下の年月日に実施した。2013年2月17~19日、2014年8月23~25日。
- 19) ウィチョール族自身は自らのことを *wixarika* (複数 *wixaritari*) と呼称する。*wixárika* や *wixarica*、*wirrarika* と表記されることもある。
- 20) 同館の掲示物には Museo de Arte Huichol *Wixárika* (ウィチョール=ウイシャリカ・アート博物館) の名称も用いられている。
- 21) 2013年2月18日にインタビュー実施。なお、Rajsbaum Gorodezki はウィチョール族民芸品を購入する「固定客」として、NGO 団体の AICAW (Asociación para la Investigación, Capacitación y Asesoría

Wirrárika, A.C.: ウィラリカ研究・研修・協議のための協会) や Zapopan 大聖堂のフランシスコ会、Instituto de la Artesanía Jalisciense (ハリスコ民芸品協会)、さらに Guadalajara 近郊の Tlaquepaque にある FONART Tlaquepaque (Fondo Nacional para el Fomento de las Artesanías Tlaquepaque: トラケパケ・民芸品振興のための国立基金) を挙げている (73)。

- 22) 2013年2月17日にインタビュー実施。
- 23) 2013年2月19日にインタビュー実施。
- 24) 2011年8月23～27日に調査実施。
- 25) 2011年8月23日にインタビュー実施。また、同店の店主によると、市内には27軒のウィチョール族民芸品を扱う店舗が存在する。なお、筆者の調査時(2011年8月)には見られなかったが、地元の情報誌によると、観光のハイシーズンである3月には、ショッピングセンター Plaza Caracol にウィチョール族の民芸品の屋台が出店される。
- 26) 2012年2月15～17日に調査実施。
- 27) Mercado 28の前にあるギャラリー風のウィチョール族民芸品専門店の店員からの情報(2012年2月16日)。
- 28) Acapulco は2012年8月22～24日、Puerto Escondido は同20～21日、Ixtapa-Zihuatanejo は同25～27日に調査実施。
- 29) Tepic は2005年9月6日に調査実施。San Blas は2005年9月7～8日、2014年8月21～22日に調査実施。
- 30) 日刊紙 *La Jornada* のインターネット記事に、San Blas を観光地開発する計画が報告されている(“Centro ceremonial huichol”)。さらに、Tepic と San Blas 間を結ぶ高速道路の整備計画も報告されている(“Este año la autopista”)。
- 31) 2014年8月22日にインタビュー実施。
- 32) 2007年3月25～26日、2013年2月26日に調査実施。
- 33) 聖地 *Wirikuta* への巡礼については、Myerhoff の *Peyote Hunt*、Arturo Gutiérrez の *La peregrinación a Wirikuta*、Ramón Mata Torres の *Peregrinación del peyote* に詳しい。
- 34) ウィチョール族は聖地 *Wirikuta* への巡礼で peyote を採取し、それをナヤリ山地へと持ち帰る。彼らの毛糸絵に見られるサイケデリックな色使いは、宗教儀礼において peyote を摂取することで体験する幻覚、すなわち幻覚の中で体験するウィチョール族の神話世界を描いたものであるとされる。
- 35) 2006年9月11～12日、2013年2月24日に調査実施。
- 36) 2013年2月24日にインタビュー実施。
- 37) Cuernavaca は2012年8月30日、Taxco は同9月1日、Oaxaca は同8月19～20日に調査実施。
- 38) 2006年9月4～7日、2008年3月18～26日、2009年9月9～14日、2013年2月21～23日に調査実施。
- 39) ウィチョール族の村と外部を結ぶ道路の開通は1970年代のことである。Luis Echeverría 元大統領(在任1970-1976) の Plan Huicot (ウィチョール・コラ・テペワン族開発計画) によって、Bolaños 郡の首町 Bolaños から Tuxpan de Bolaños への道路(未舗装の林道)が開通した。同じく、Huejuquilla el

- Alto から San Andrés への148km の道路（未舗装の林道）は1974年に開通した（安元 41）。
- 40) San Andrés においては、外部から村を訪問する商人が、民芸品の材料を運び、村で製作された民芸品を町へ運んで販売することが報告されている（Rajsbaum Gorodezki 73）。

参考文献

- Alvarado Solís, Neyra Patricia (coordinadora). *Sistemas normativos indígenas huichol, cora, tepehuano y mexicano*. México: Comisión Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas, 2010.
- Arte antiguo cora y huichol*. Artes de México. Número 85. México: Artes de México, 2007.
- Barajas Zendejas, Margarita (coordinación y compilación). *Artesanías, una fusión de vida y cultura: 45 aniversario de la Casa de las Artesanías de Jalisco*. Tomo 1. Jalisco: Instituto de la Artesanía Jalisciense, 2009
- Barrera Rodríguez, Rosier Omar. *Medios natural y ambiental del territorio huichol (norte de Jalisco, México)*. Guadalajara: Universidad de Guadalajara, 2004.
- Castelló Yturbide, Teresa, y Carlotta Mapelli Mozzi. *La chaquirá en México*. México: Museo Franz Mayer; México: Artes de México, 1998.
- CDI (Comisión Nacional para el Desarrollo de los Pueblos Indígenas). *Indicadores básicos sobre la población indígena de México*. México: Comisión Nacional para el Desarrollo de los Pueblos indígenas, 2008.
- Fernández de Calderón, Cándida, et al. (coordinación editorial). *Grandes maestros del arte popular mexicano: Colección Fomento Cultural Banamex*. México: Fomento Cultural Banamex, 2001.
- Fresán Jiménez, Mariana. *Nierika: Una ventana al mundo de los antepasados*. México: Conaculta; México: Fomento a Proyectos y Coinversiones Culturales, 2002.
- Gómez Romero, Josemaría. *Real de Catorce*. Guadalajara: IVADIA & G, 2003.
- Grady, C. Jill. “Huichol Votive Art.” Melissa S. Powell and C. Jill Grady (eds.). *Huichol Art and Culture: Balancing the World*. Santa Fe: Museum of New Mexico, 2010. 33-47.
- Gutiérrez, Arturo. *La peregrinación a Wirikuta*. México: Instituto Nacional de Antropología e Historia; Guadalajara: Universidad de Guadalajara, 2002.
- Kindl, Olivia, y Johannes Neurath. “El arte wixarika, tradición y creatividad.” Jesús Jáuregui y Johannes Neurath (coordinadores). *Flechadores de estrellas*. México: Conaculta-Instituto Nacional de Antropología e Historia; Guadalajara: Universidad de Guadalajara, 2003. 413-453.
- Kindl, Olivia. *La jícara huichola: Un microcosmos mesoamericano*. México: Instituto Nacional de Antropología e Historia; Guadalajara: Universidad de Guadalajara, 2003.
- Lugares sagrados: Relato wirrarika*. México: Instituto Nacional Indigenista, 1992.

- Lumholtz, Carl, and Pablo de la Cruz. *Huichol: Shamanic Emblems: Sacred Origin of the Yarn Paintings*. Oakland: Bruce Finson, 1997.
- Lumholtz, Carl. *Unknown Mexico: A Record of Five Years' Exploration among the Tribes of the Western Sierra Madre; in the Tierra Caliente of Tepic and Jalisco; and among the Tarascos of Michoacan*. Vol. 2. Antiquities of the New World. Vol. 15. New York: AMS Press, Inc., 1902 (reprint 1973).
- Maclean, Hope. "The Origins of Huichol Yarn Paintings." Melissa S. Powell and C. Jill Grady (eds.). *Huichol Art and Culture: Balancing the World*. Santa Fe: Museum of New Mexico, 2010. 65-77.
- Mata Torres, Ramón. *Peregrinación del peyote*. Guadalajara: Edición de la Casa de las Artesanías del Gobierno de Jalisco, 1991.
- Museo Etnográfico Wirrarika (Wixarica, Exposición Huichola)*. Zapopan: Pro-manuscripto, n.d.
- Myerhoff, Barbara G. *Peyote Hunt: The Sacred Journey of the Huichol Indians*. Ithaca: Cornell University Press, 1974.
- Nahmad Sittón, Salomón. "Artesanías coras y huicholas." Peter T. Furst y Salomón Nahmad Sittón. *Mitos y arte huicholes*. México: SEP/SETENTAS, 1972. 126-167.
- Negrin, Juan. *El arte contemporáneo de los huicholes*. Guadalajara: Universidad de Guadalajara; Guadalajara: Museo Regional de Guadalajara; México: INAH, 1977.
- Neurath, Johannes. *La vida de las imágenes arte huichol*. México: Artes de México; México: Consejo Nacional para la Cultura y las Artes, 2013.
- PNUD (Programa de las Naciones Unidas para el Desarrollo). *Informe sobre desarrollo humano de los pueblos indígenas en México: El reto de la desigualdad de oportunidades*. México: PNUD, 2010.
- Rajsbaum Gorodezki, Ari. "Los huicholes." *Etnografía contemporánea de los pueblos indígenas de México: Región occidental*. México: Instituto Nacional Indigenista; [México?]; Secretaría de Desarrollo Social, 1994. 53-107.
- Sáizar, Consuelo. "El Vochol: Del arte popular al arte contemporáneo." Alejandro R. Elizalde Gutiérrez. *El Vochol: Del arte popular al arte contemporáneo*. México: Museo de Arte Popular, 2011. 53-65.
- Schultes, Richard Evans, y Albert Hofmann. *Plantas de los dioses: Origen del uso de los alucinógenos* [Plants of the Gods: Origins of Hallucinogenic Use]. Traducido por Alberto Blanco. México: Fondo de Cultura Económica, 1982.
- Télez Lozano, Victor Manuel. *Xatsitsarie: Territorio, gobierno local y ritual en una comunidad huichola*. Zamora: El Colegio de Michoacán, 2011.
- Torres Contreras, José de Jesús. "La organización productiva y las políticas gubernamentales en la zona huichol." *Los wixárika*. Zapopan: El Colegio de Jalisco, 2001. 33-44.
- Weigand, Phil C. "Contemporary Social and Economic Structure." Kathleen Berrin (introduce and ed.) and Thomas K. Seligman (preface). *Art of the Huichol Indians*. New York: The Fine Arts Museums of San Francisco; New York: Harry N. Abrams, 1978. 101-115.

安元正也 「聖週間 —ウィチョール族の祭儀」『南部メキシコ村落におけるカトリック系文化の研究 (III)
—1983年度メキシコ海外学術調査報告』九州大学文学部、1985年、33-80頁。

山森靖人 「ウィチョール族社会の近代化と神話伝承」『昔話 —研究と資料』40号、2012年、69-78頁。

“Centro ceremonial huichol de la Isla del Rey, en la mira de empresas turísticas.” *La Jornada*. 1
noviembre 2011. 14 octubre 2014 <<http://www.jornada.unam.mx/2011/11/01/estados/032n2est>>

“Este año la autopista a San Blas.” *Realidades de Nayarit Expresión y Comunicación para el Progreso*. 17
enero 2014. 14 octubre 2014 <<http://periodicorealidadesmx.com/nota.php?id=18609>>

「世界の平均年収 国別ランキング統計・推移」2014年12月13日 <<http://www.globalnote.jp/post-10401.html>>

(やまもり・やすひと 短期大学部准教授)